

5 求められる知識と能力

食Pro.のプロレベル(レベル4~6)は、次のような能力と実績の方です。プロへとステップアップするための段階として、レベル1~3が設定されています。

- 農林水産物を高付加価値化する事業の企画ができる。
- 市場開拓を先導できる。
- 参画する主体間の利害関係を調整できる。
- 適正な付加価値配分を行うことができる。
- 異業種横断でプロジェクトを組成・管理できる。
- 実績を上げることができる。



「わかる」の育成プログラム内容

科目名	事業主・法人スタッフ	支援スタッフ
レベル1		
6次産業化論	>0分	
経営及び経営分析の基礎	>0分	
経営及び経営分析の基礎(事例)	>0分	
食品衛生管理(基礎)	>0分	
農産物と水産物	>0分	
食品加工(基礎)	>0分	
食品流通	>0分	
レベル2		
6次産業化関連法規	60分	
財務の基礎	90分	
6次産業化事例分析	90分	
事業計画(基礎)	180分	
農業・水産業及び食品加工・流通関連法規	60分	
食品衛生管理(応用)	60分	
農業技術と水産技術	90分	
食品加工(応用)	60分	
マーケティング(基礎)	30分	
経営分析の応用	—	90分
財務会計	—	90分
金融制度	—	30分
事業計画(応用)	—	360分
コーディネート手法(基礎)	—	90分
レベル3		
経営戦略	90分	
経営戦略(事例)	90分	
経営管理	90分	
商品開発	90分	
マーケティング(応用)	180分	
事業計画(応用)	360分	—
6次産業化関連制度	—	30分
事業計画(診断)	—	180分
コーディネート手法(応用)	—	90分

「できる」の評価指標

商品・サービスの開発	商品化・サービス化 自分たちの事業環境を見極め、顧客がつく商品開発を推進できる人材か	15点	商品の企画・設計・開発に主体的に参画できる 商品の開発にあたり自分たちの強みを活用できる 市場の規模や成長性を正確に捉えられる 最終消費者と消費・利用シーンを想定できる 競合相手に対する競争優位性について客観的に確認できる 損益分岐点を計算できる
	多角化等 持続的な発展のために、戦略的に事業開発を行える人材か	5点	選択しうる複数のアイデアの中から、最適なものを客観的に選択できる 商品の成功がもたらす各連携事業者の経営上のメリットについて説明できる 後続の商品開発のネタを出せる
販路開拓・プロモーション	新規販路の開拓・拡充 商品・サービスを拡販できる人材か	15点	販路の獲得手段を具体的に挙げられる 商品特性に合った販路開拓ができる サプライチェーンマネジメント(商流・物流・情報流)を合理的に設計できる
	メディア等への情報発信 最終消費者とのコミュニケーションを構築できる人材か	5点	商品を最終消費者に認知させるための手段を具体的に挙げられる 商品を最終消費者に体験させるための手段を具体的に挙げられる 商品の評判を把握する手段を具体的に挙げられる
連携・コーディネート	生産・加工・流通の連携や一体化、異業種との連携 バリューチェーンを支える連携体制を築き、発展させるために必要なリーダーシップ、マネジメント力、ネットワーク力を有する人材か	15点	商品のバリューチェーンを支える人的ネットワークを築ける 連携事業者の能力を活かすことができる 連携事業者間の付加価値配分を適正に行える 自らが利害関係の調整役となる 商品の売行きが伸び悩んだ場合に、協働者を鼓舞し、軌道修正できる
	地域活性化への貢献 地域貢献を志し、行動する人材か	5点	地域を活性化しようという強い意志を保持できる 商品の成功による地域への経済的な波及効果をシミュレーションできる 商品の成功による地域への非経済的な波及効果をシミュレーションできる 地域活性化のために本業とは直接関係のない活動も行える
その他アピールポイント 社会貢献度の高い事業を開発できる人材か		各10点 計20点	当該商品の成功により連携事業者のいずれかが新たな人材を雇用できる(した) 当該商品を通じて、便益創出・雇用創出以外の社会貢献を企図している
事業成果 実績のある(成功体験を有する)人材か		各10点 計20点	当該商品の売上げは伸びている 当該商品により全連携事業者が利益を確保できている

※レベルにより、必須項目が異なりますが、評価指標は全レベル共通です。